

第十一節 人物

本項では郷土史に出てくる人物について集録することとし、期間は本島にはじめて代官が駐在した元禄三年(一六九〇)ごろから慶応元年(一八六五)までとし、それを年代順に当時の職名、後裔の判明している分についてはそれも併記する。

記

元禄 元年 大城間切与人中城没す。(内城宗家系図)

元禄 八年 喜美留間切与人、中城の子池久保没す。

元禄 十二年 喜美留間切与人先久間没す。

正徳 元年 与人平安山(手々知名大坪氏)、久米村(和

の前氏)、具永久(和泊陽氏)の名、答申

上書にあり。

享保 元年 平安山、久米村、豊峯(内城村豊山氏)与

(二七二六)

人に任ぜらる。

享保 二年 間切横目七名設置。具永久、具志川(有川

(二七二八)

貞辰氏祖) 与人に任ぜらる。

享保 四年 琉球尚敬王即位、与人平安山、取払役具永

(二七二九)

久、祝のため渡琉。以後即位ごとに此の例

あるも略す。

享保 九年 喜美留村下へ朝鮮船漂着。船取仕立宰領与

(二七三四)

人久米村同平安山取払役富玖安相付琉球へ

送届候。

享保十五年 嘉美座(手々知名龍野氏) 亘嘉統与人に任

(二七三〇)

ぜらる。

享保十九年 平安統(宗武重氏祖)、富玖治(大脇福莊

(二七三四)

氏祖) 与人に任ぜらる。



具志川の肖像 享保三年(1718)与人に任ぜられた。(冠は黄冠)

延享 元年

仁志平(和泊和氣西亮氏祖先)、池悦(内城) 与人に任ぜらる。

天明 元年

直川(和泊陽氏祖) 与人に任ぜらる。

延享 二年

富玖安(手々知名大脇氏祖) 与人に任ぜらる。横目二名詰。

天明 六年

宜志甫(大城、伊集院周熊氏祖先) 与人に任ぜらる。

寛延 三年

与人池悦、横目平安統、取払役永喜三、漂着唐人十七人琉球へ送り届く。

天明 七年

董南美(和泊、有川貞康氏祖先) 与人に任ぜらる。

宝暦 元年

具志川与人に任ぜらる。この年喜美留与人池悦碑を建つ(内城の山田の家にあり)。

寛政 二年

永良部から山原やんばるへ向かった舟が辰の風のため十四日間漂流し、朝鮮全羅道興陽県に漂着した。舟の長さ六十尺広さ十尺五寸高さ六尺船中に米、麦、粟、豆、木綿、蕉などをせていた。船中の人口は七名、喜美留村の伊名川、前平、喜者富、国頭村の高甫、出花村の仲正、先甫、畦布村の神屋の七名だった。

宝暦 四年

平安統(内城宗氏) 与人に任ぜらる。

寛政 三年

平安統(内城の宗氏祖先) 与人に任ぜらる。

宝暦 六年

尚穆王即位に付、調物与人寄富玖政(大脇氏祖)、掟具志政送届(異国与人富玖郷の墓建つ)

寛政 四年

真玉橋(手々知名龍野為秀氏祖先) 与人に任ぜらる。

宝暦 十二年

津口横目六名、田地横目兼山方横目三名設置(いづれも氏名不詳)

寛政 五年

玉川(和泊の陽兼良氏祖先) 与人に任ぜらる。

明和 六年

富玖治(大脇氏祖) 与人に任ぜらる。

寛政 二年

西正(和泊の西彦熊氏祖先) 与人に任ぜらる。

明和 八年

藩主慶事により献上物調斉し、与人富玖治上国す。

寛政 四年

杜美榮(和泊市来惟一氏祖先) 与人に任ぜらる。

安永 三年

御祝儀に付与人玉江原(和泊竹夏再志氏祖先) 上国す。

寛政 五年

喜美座(手々知名龍為久氏祖先) 与人に任ぜらる。

安永 四年

御祝儀に付与人久志堅(伊集院氏祖) 上国御祝儀に付与人久志堅(伊集院氏祖) 上国

寛政 九年

尚育王被封王位、与人寄饒霸、取払役饒丕宰領。

寛政 十二年

尚温王、王位に封ぜられ与人真玉橋、掟平安瑞宰領。

文政 五年

黍栽培開始は一八三〇年代で、与論島は一八四〇年代であったと記されている。

享和 二年

宮川(和泊の栄宮信氏祖先) 与人に任ぜらる。

文政 八年

杜敬業(和泊、市来惟一氏祖先) 与人に任ぜらる。

文化 四年

尚瀬王王位に封ぜられ、与人西正、取払役平安雄宰領。

文政 九年

唐に漂着した長久丸に種子島の人九人、秋目の人六人、指宿の人二人、今和泉の一人、垂水の人一人、下泉町の一人船頭は鹿兒島下町の貞次郎、この外に沖永良部島の久志検村中元、喜美留村白間、畦布村里江、和泊村仲留、手々知名村季国の五人いたが、肩書きはない。

文化 七年

唐に漂着した長久丸に種子島の人九人、秋目の人六人、指宿の人二人、今和泉の一人、垂水の人一人、下泉町の一人船頭は鹿兒島下町の貞次郎、この外に沖永良部島の久志検村中元、喜美留村白間、畦布村里江、和泊村仲留、手々知名村季国の五人いたが、肩書きはない。

天保 十年

右左美(町田美彰氏祖先) 与人に任ぜらる。

文化 十一年

夏鼎用(旧名玉江原、夏再志氏祖先)、平安統(内城の宗氏の祖先) 与人に任ぜらる。

天保 年間

夏鼎幹(竹氏祖先)、曾勲(沖島氏祖先) 唐本通事に任ぜらる。

文化 十四年

久志堅(伊集院氏祖)、清澄(喜美留の福山清寛氏祖先) 与人に任ぜらる。

弘化 四年

与人町右左美致至、その子右左則襲職。

文化 元年

文化・文政のころ和泊の董美子、手々知名の盛平、甘蔗苗を徳之島より求め挿植製法伝習せしという。県史二巻には沖永良部の

安政 二年

坦晋(操坦勁氏祖父) 与人に任ぜらる。

文化 元年

文化・文政のころ和泊の董美子、手々知名の盛平、甘蔗苗を徳之島より求め挿植製法伝習せしという。県史二巻には沖永良部の

安政 二年

蘇廷良(沖利基氏祖先) 与人に任ぜらる。

文化 元年

文化・文政のころ和泊の董美子、手々知名の盛平、甘蔗苗を徳之島より求め挿植製法伝習せしという。県史二巻には沖永良部の

安政 五年

内城村、玉城村境の石橋を内城村の平安明、平安長、宗悦、和村の玖米統らより工費寄

文化 元年

文化・文政のころ和泊の董美子、手々知名の盛平、甘蔗苗を徳之島より求め挿植製法伝習せしという。県史二巻には沖永良部の

安政 五年

内城村、玉城村境の石橋を内城村の平安明、平安長、宗悦、和村の玖米統らより工費寄

附し、架設す。

文久元年
(一八六二) 山真粹憲(山口通志氏祖父) 与人に任ぜらる。

文久二年
(一八六三) 義盛(和泊の西氏祖先) 与人に任ぜらる。
文久三年
(一八六三) 政照自費を以て報恩丸を製造、英艦襲来の安否を伺わしむ。間切横目坦裁(坦勁氏の父) 上臈す。

元治元年
(一八六四) 政照与人に任ぜらる。西郷隆盛胡蝶丸で帰臈す。

慶応元年
(一八六五) 和泊村の西宜美宅(宮窪) 旧井搜掘す。

同年
(一八六五) 尚泰王被封王位、与人蘇廷良、取払役蘇廷讓宰領。